

1 単元名 「水俣に学ぶ」

2 単元目標

- ・水俣病について症状や原因、歴史等を正しく理解することができる。 (知識・理解)
- ・水俣病について学んだことから、環境面や人権面で整理し、自分たちと重ね考え、自分たちができることを見つけることができる。 (思考・判断・表現)
- ・水俣との出会いを通して、様々な差別と自分のくらしとのつながりを考え、差別をなくそうとする態度を育む。 (主体的に学習に取り組む態度)

3 単元について

(1) 教材観

本単元では、熊本県水俣市で起きた水俣病について教材として取り上げる。水俣市は、熊本県南部に位置し、漁業が盛んな地域であった。チッソという会社が排水で流したメチル水銀化合物が海に流れ、それを魚が摂取し、その魚を人が長期間食べることで人体に影響を及ぼした。これが水俣病である。水俣病の症状では、手足の感覚障害や運動失調、平衡機能障がい、求心性視野狭窄、聴力障がいなどがある。また、水俣出身であるというだけで結婚や就職を断られたり、水俣の産品が売れなかつたりなどといった差別が起きた。水俣ではチッソに勤める人も多くおり、チッソに勤めながら水俣病患者になった人に対する差別があつたり、水俣病患者が出た地区を差別したりと水俣の地域の中でも様々な差別も起きていた。このような差別や偏見について多角的に学び考えることで、児童自身が差別に立ち向かう力や何が正しいことかを見極める力を育成することができる教材であると考えられる。

(2) 児童観

本学級の児童は、体を動かすことを好む児童が多く、運動会などの行事では、団結する力を持っている。一方で、相手の気持ちを考えずに相手を傷つけるような発言をしたり、手を出したりしてしまうこともある。4年生時に総合的な学習の時間で、4年生集会を行い、自分が思っていることを訴える立場宣言をしてきた。また、毎年、地元の人権啓発の拠点である教育集会所に行き、さまざまな人権や差別の問題について学んできている。前期前半に人権学習を行い、友達に対して平等に接することの大切さ、授業中だけ正しい行動をするのではなく、普段から正しい行動を心がける必要がある、ということを学んでいる。学級の中で実際に水俣市を訪れた経験があり、その際に水俣病について学んだことを覚えていた児童もいる。

(3) 指導観

本単元の指導にあたっては、まず、水俣病資料館の「水俣病のあらしー水俣病と生きるー」を視聴し、水俣病が発生する前から現在の水俣市に至るまでの概要を知ることから始める。その中で、疑問に思ったことを出し合い、それを課題にする。その課題について、インターネット等を用いて調べ、全体で共有する。その後、企業であるチッソについて学ぶ。チッソが日本の産業の発展に貢献していたこと、チッソでは水俣の人も多く働いていたこと等違う視点から水俣病について考えるとともに、チッソがつくり出す製品を多くの人々が使っていたことから水俣病の問題が他人事

ではなく、自分たちともかかわりの深い問題であることを知らせる。次に『きずな』に掲載されている「この子とともに」を読み、水俣病差別をされる側だけでなく、差別する側の思いも考え、水俣病患者家族の思いを考える。水俣病患者の立場、チッソの立場などさまざまな立場で水俣病について考え、「肥後っ子教室」で調べたいこと、疑問に思っていることをまとめる。「肥後っ子教室」に行く前に、水俣市出身の職員から、水俣ではどのように水俣病について学ぶのか、水俣病についてどのように思っているのかなどを聞き取る。「肥後っ子教室」では、水俣市の現状について学んだり、環境学習をしたり、語り部の方の講話を聴いたりして水俣についての疑問を解決する。「肥後っ子教室」で学んだことは新聞でまとめ、それを交流する。その後、自分たちの学級の中にある差別について考え、水俣について学んだことと自分たちの暮らしと重ねて考え、自分たちがどのように変わっていかねばならないかを考える。最後に、水俣で学んだこととそれを自分たちに重ねたことでどのように自分や学級が変わっていったかを人権フェスティバルで発表する。

(4) ESD との関連

・本単元で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

相互性

水俣病差別も部落差別も差別の構図は同じであり、つながっていく。

責任性

水俣病について正しい知識を得て、そこから自分たちも正しい行動を考え実践していく。

・本学習で育てたい ESD の資質・能力

多面的・総合的に考える力

水俣病の問題について、様々な角度から学ぶことを通して、問題の解決に多面的・総合的に取り組むことが重要であることに気づかせる。

進んで参加する態度

意欲的に調べてまとめたり、自分たちと水俣病を重ねて考えたりして、積極的に参加しようとする。

・本学習で変容を促す ESD の価値観

世代間の公正

1950年代に発生した水俣病とそこから起きた差別や差別との戦いの歴史を受け継ぎ、次の世代に二度と同じことが起きないように伝えていかなければならない。

人権を尊重する

水俣病患者への差別、水俣市の中であった差別等を知り、自分たちと重ねて考えることで差別をなくし、人権を大切にする力をつける。

・達成が期待される SDGs

11 持続可能な都市・まちづくり

14 海の豊かさを守ろう

16 平和と公正をすべての人に

4 単元の評価規準

ア 知識及び技能	イ 思考力・判断力・表現力	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>① 互いの相違を認め、相手の立場に立って考えたり、相手のよさを進んで見つけたりしている。</p> <p>② 人権が尊重される集団づくりのために必要な人との関わり方について知っている。</p> <p>③ 自分の気持ちや考えを整理したり、相手の考えを理解したりしている。</p>	<p>① 相手の立場に立って考えたり、自分の気持ちをわかりやすく伝えたりするために表現している。</p> <p>② 差別や偏見を見抜き、困っている人の立場で考えたり、諸問題を公平な立場で考えたりして解決を目指すために表現している。</p>	<p>① 自分と異なる意見や考えがあることに気づき、相手の立場を理解しようとしている。</p> <p>② 人権を守るために、さまざまな事象や努力をしてきた人々がいることに気づき、これからも人権を守り続けていくことの大切さを理解し、主体的に差別をなくそうとしている。</p>

5 単元の指導計画（全31時間）

過程	時間	学習活動	学習への支援	評価・備考
一	1	「水俣病のあらましー水俣病と生きるー」を視聴し、課題意識を持つ。	・映像を視聴する前に、水俣について知っていることを出し合う。	△イ②
	2	共通の課題ごとにつくったグループで水俣、水俣病について調べる。	・調べる際は、図書やタブレットを使い、グループで協力して調べる。	△ア①
	1	調べたことについて発表し合い、共有する。	・グループごとにタブレット等を用いて調べたことを学級全体に向けて発表する。 ・児童が発表したことを黒板にまとめる。	△イ①
	2	チッソについて知る。	・前時までで水俣病の原因や症状などについて調べているため、原因企業のチッソについて、チッソが水俣市に来た理由から、チッソが戦後の日本経済に貢献してきたこと等チッソ側について考えることで、水俣病を自分事としてとらえさせる。	△ウ①
二	5	「この子とともに」を読み、水俣病に関する差別のおかしさについて話し合う。	・水俣病患者の家族の視点の物語を読み、前時までの視点と違う新たな視点を持たせる。また、指導者が聞いた患者家族等の話を補足で取り入れる。 ・差別される側からだけでなく、差別する側からも考えさせる。	△ア② ウ①

三	1	肥後っ子教室で知りたい、学びたいことを伝え合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・導入でスライドを用いてこれまでの学びを確認する。 ・自分が感じたことや疑問に思っていることを全体で伝え合い、一人一人が肥後っ子教室でのめあてを設定する。 	△ア③
	5	肥後っ子教室で水俣学習を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・見学の際は、自分で立てためあてを確認して、メモを取ることを伝える。 ・語り部の方の講話の際も話を聞きながらメモを取る。 	△ウ②
	4	自分が学んできたことを伝えるために情報をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・肥後っ子教室で新たに発見したこと等を今まで学習してきたこととリンクさせ、全員で情報を共有する。 	△ア③
	1	水俣で学習したことをまとめ直す。	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が新聞にまとめる。内容は、指導者が整理し、その中から児童に選ばせる。 	△イ②
四	1	自分たちの生活の中にある差別・偏見について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・学級の中である差別についてアンケート等を用いて出し合う。 	△ウ②
	3	集会所で差別・偏見についてGTの話を聞き、考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・GTの話から、自分たちの学級と重なることや水俣病に関する差別と重なることを考え、話し合い共有する。 	△イ②
五	4	これまでの学習と自分たちの生活を重ね、まとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・水俣、水俣病について学んできたことを最初に確認する。そして、自分たちの中にある差別・偏見をする心は水俣病に関わる差別をする心と重なることを理解できるように話し合う。差別の構造はすべて同じことを確認する。 ・児童が学級で変えていきたいことを新たな学級目標として作り、それが達成できるように日々、帰りの会等で振り返りをする。 	△イ②
	1	人権フェスティバルで学習したことを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「水俣に学ぶ」で何を学んだか。そして、それが、自分たちの生活とどのように重なり、そこから自分たちがどのように変わっていったかを伝える場にする。 	△イ②